



大山 健太郎

一般社団法人東北経済連合会 副会長
産業政策委員会 委員長

日本の米流通を変える

今年3月、安倍首相は環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）への交渉参加を正式に表明した。日本の農業生産額は7.1兆円となっており、TPP参加による関税の撤廃で3兆円の減少が見込まれ、米、麦、牛・豚肉、乳製品、甘味資源作物の農産5品種の関税撤廃の例外措置が取られなければ、日本の農業に大きな影響があるとして、農林漁業団体などから反対表明が出されているところである。

日本の米生産農家の現状は、平均作付面積が約1ヘクタールとなっており、オーストラリアの70ヘクタール、アメリカの160ヘクタールと比べ、かなり小規模になっている。そのため60kg当たりの生産コストは、日本が16千円、アメリカが2千円と大きな差が開いている。

また、日本の食生活の西洋化により、日本の米の消費量は年々減少しており、一人当たりの年間消費量は、1962年の118kgをピークに昨年は56kgにまで半減している。これまでの日本国内における米の流通は、年間約800万tの生産量のうち、7割が市場に流通し、内農協が4割を占めている。米はこれまで農作物として生産者目線でしか流通しておらず、生活者目線に立った商品開発や流通などは行われてこなかった。

そのような中で、東日本大震災が発生し、米どころである宮城県の沿岸部は大きな津波被害に遭いました。被害を受けた沿岸部の米農家を支援し、復興の後押しをするために、立ち上げたのが「舞台アグリイノベーション」です。

舞台アグリイノベーションでは、農作物として流通していた米を「商品」として生活者に届けるために精米事業を行ないます。鮮度を保つために低温倉庫で保管し、低温で精米します。また、従来の5kg、10kgといったポリ袋で流通させるのではなく、食べ切りサイズの3合パックで個装し、脱酸素剤を入れることで鮮度を保ち、4個セットの1.8kg、10個セットの4.5kgでお届けします。おいしい東北の米を関東、関西はもとより、九州、沖縄でも食べられるよう当社のネットワークを使い、全国配送することで東北の米の消費拡大に努めます。また、これまで経営基盤が弱かった農家に対し、米の全量買い取りを行うことで、金融機関からの融資を受けやすくなり、肥料や農薬などの農業資材等の共同購入による低コスト農法を実現させ、若手農家を育成していきたいと考えています。

これまでの農作物から「商品」化することでおいしいお米をお届けし、まずは日本の米の消費量を増やしたいと考えています。そして、当社のグローバルネットワークで輸出拡大を図ります。

（アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役社長・おおよま けんたろう）